

iとらむ

「iとらむ」…「とらむ」は新型路面電車のこと。「i」はikebukuroに人と環境に優しい
「愛=i」のあるまちづくりを願う、この会の理念を表しています。



池袋西口公園



中池袋公園



造幣局跡地の
新公園



南池袋公園

LRT構想

サンシャイン
シティ

「東アジア文化都市」を運ぶ、
電動ビークル



Contents ▶▶▶▶▶

目次

- “eCOM-8”豊島区を走る!…2.3
- ファンタスティックな路面電車のまち…4.5
- CG映像とアンケート調査報告…6
- 速報、VOICE、コラム…7
- INFORMATION…8

電動コミュニティビークル

イーコムエイト

“eCOM-8”

豊島区を走る！

池袋の路面電車とまちづくりの会

溝口 禎三
みぞぐち てるみ



“eCOM-8”とは

平成29年4月末の連休の最高の日和に、池袋駅東口のLRT計画線道路を中心に、街ゆく人がみな注目し、ふりかえって観るような乗り物が走りました。電動コミュニティビークル“eCOM-8”です。

片側に四つずつ、小さなタイヤの開放感たっぷりの観たこともない乗り物が、池袋の街中を上限速度19キロというスピードで、ゆっくりと走ってゆきます。

豊島区は、池袋副都心でのLRT構想を見据え、来街者や交通弱者が安心して移動できる新たな交通システムの検討を進めていましたが、この日の“eCOM-8”はその一案として、試乗会が催されたものでした。

電動ビークルの動力は環境にやさしい電力です。そして、バスのルーフには太陽光発電装置が取り付けられてあり、走行距離の幾分かは太陽が担ってくれます。バスのシートは向かいの人と膝がくつききそうな対面シートで、高揚する気分と相まって自然に見知らぬ人とも会話がはずみます。

試乗をしてみても

果たして試乗してみると、そこには今まで見たことのない新鮮な池袋、感じたことのない観光地としての祝祭的な池袋のまちがありました。乗客も、眺める歩



区内各所をゆっくり走るeCOM-8

行者も、どちらも楽しい！街ゆく人とeCOM-8の乗客とが微笑みあい、自然な親近感が生まれるようでした。

豊島区のまちづくりの標語に「ひびきあう 人まちとしま」という素敵なフレーズがあります。このeCOM-8は人を乗せてゆっくりと走り、活気のある池袋のまちを見せることで、その響きあう人とまちの実際を示してくれているかのように、わくわくする体験でした。

池袋の路面電車とまちづくりの会は平成15年に、「文化の風薫る池袋のまちづくり、人と環境にやさしい新しい商業と居住の都市空間を、路面電車を活用して実現する」という目的で発足しました。



街を颯爽と走る姿がとても印象的

当時はまだ「3K」と揶揄されていた池袋のまちに、新型路面電車（LRT）を！というアイデアは斬新すぎ、我々の会は、江戸時代の俳諧師・小林一茶が詠んだ「名月をとつてくれると泣く子かな」的な感じもあつたかもしれませんが、新区庁舎や南池袋公園、それに2020年のハレザ池袋など、心躍る開発が進んできた現在、その夢は見果てぬかなわぬ夢ではなくなってきました。

世界の先進的な街のように、「歩いて楽しい、観て美しい池袋」がいいと思います。そして、そこに街のシンボルになる乗り物が、しっかりとした街の移動・回遊システムとして備えられていたら、より親しみのある、訪れてみたい街となることでしょう。

入は、これも我々の会の求めるまちづくりを実現する一つのアイデアになると感じました。この「eCOM8」は、ある種、観光地の乗り合いバスのようなものですが、このバスは、まちのさらなる美観整備、環境整備を求め、間違いなく人にやさしい、人が来て・居て・楽しめるまちの実現を池袋に迫るものと思います。

全体的なことを言えば、車両デザイン、運行定時性と輸送量、トランジットモデルとの相性など、「月をより名月に」の想いはありますが、池袋の現在の短いルートでは、このほうがフィットするという考え方も確かにあると思います。

今後の展開

うれしい悩みが生まれそうです。「eCOM8」もさらに進化していくでしょうし、世界のまちの魅力が大きく高めてきたLRTの魅力・実力ももちろん捨てがたいものがあります。

区が予定している2019年に電動ビークルが実際に走った時には、これを楽しみ、池袋の未来を想いたい。そして、2020年に区庁舎前の環5の1道路が完成し、池袋東口駅前の様相が一変したときにはまた、電動ビークルと、LRTの名月比べも、是非してみたい。池袋に既にある太陽・サンシャインシティをいつまでも一人しておくのは、いかにももったいないのです。

シンポジウム「ファンタスティックな路面電車のまち」

■ 第1部 基調講演

「ファンタスティックな路面電車のまち」

株式会社藤久不動産代表取締役

後藤文男氏

■ 第2部 対談

「世界の路面電車と池袋のまちづくり」

後藤文男氏 × 高野之夫豊島区長

平成28年8月8日午後6時30分

於：豊島区生活産業プラザ多目的ホール

平成28年8月8日、シンポジウム「ファンタスティックな路面電車のまち」を開催。目玉は、世界的に有名なイギリスのブラックプールの路面電車を取材し、

28年4月に、「ファンタスティックな路面電車のまち」(交友社刊)を上梓した株式会社藤久不動産代表取締役社長・後藤文男氏の講演でした。



後藤氏は、子供のころからの写真・鉄道ファンで、慶応義塾大学時代には鉄道研究会・鉄研にて活躍。卒業後は『鉄道ファン』を刊行している交友社に入社、その後、地元池袋にて家業の不動産会社を継ぎ、29年8月には、南池袋2丁目のランドマークとなる「電車のあるビル」(藤久ビル東5号館)をオープンし

て注目を浴びています。(写真①②)。撮影：溝口禎三

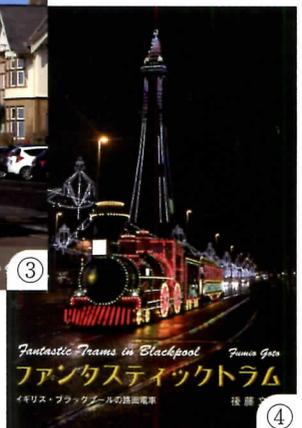
ブラックプールのトラムは、日本人にはまだあまり紹介されてはいませんが、路面電車ファンにとってはたまらない夢のような路線で、当日は会場に入りきれないくらい参加者があり、申し訳ないことに立ち見の方もおられ、熱気がありました。

この街のトラムは、蒸気機関車型、ロケット型、船舶型、屋根なし型、二階建てタイプなどなど、ユニークなスタイルのトラムが実際に走っており、まるで路面電車の博物館のようです。(写真③④) ⑤⑥。撮影：後藤文男氏、「ファンタスティックな路面電車」より)

後藤氏は、1978年に初めてこのまちを訪れ、その後あわせて5度ブラックプールの市を訪問しているといいます。

第1部の講演は、このブラックプールのトラムを中心に、後藤氏がこれまで撮りためた豊富な秘蔵写真を映し出しながら行われました。(詳細については、ぜひ書店で「ファンタスティックな路面電車」を手にとって見てみてください。)

ブラックプールの市がイギリスでも人気のある保養都市であり、世界中から観光客が訪れていると知り、改めて路面電車



の魅力とまちづくりの実力を再認識しました。

第2部は後藤氏と高野区長との対談です。

高野之夫区長から後藤氏に、池袋にLRTを導入時の具体的な質問がありました。一つには、池袋のLRTを観光トラムとしての位置つけた場合の採算性、そしてもう一つは池袋に路面電車が来たらまちがどう変わるだろうか、という問題。

それに対して後藤氏の回答は次のようでした。

観光トラム単体では採算はなかなか難しいだろうが、人を中心と位置づけるまちづくりをし、公共交通である路面電車を整備すること、また、周辺建物も路面電車と調和するものにする。



⑤ これに対して高野区長からは、行政主導ではなく民の力で盛り上げてゆき、

また、2・1kmの短い距離をどのように乗ってもらえるかが大事。乗って楽しい愉快なトラム・日本にないようなトラムをつくるべきとの提言がありました。またほかにも、架線のないバッテリーカーであれば、2階建てトラムも実現可能、ボランティアによる車両の掃除・乗車券販売の可能性もあること、アニメのコスプレをした女子アテンダントがいる『アニメトラム』も面白い、人と人とのふれあいが大事、路面電車が走る町は全体としてゆったりとした町だと考える人が多いので、池袋のイメージアップとなる、など、世界中の路面電車を見た経験からくる豊富かつ具体的なアイデアも披露されました。



⑥ この言葉を頂戴しました。改めて御礼申し上げます。(文責・事務局)

以上、後藤氏からのブラックプールのトラムの実情報告には、広い世界を知り、アイデアと勇気を頂戴しました。また、高野区長と森本顧問には力強い励ましの言葉を頂戴しました。改めて御礼申し上げます。(文責・事務局)

んなで創っていくんだという思いを強く感じたとの感想が述べられました。

講演会の最後に、当会顧問の森本章

倫早稲田大学大学院教授より、池袋のLRTは、派生需要よりも「乗ってみたい」という本源的需要を喚起する視点が重要、そして、LRTの整備とともに、町全体を2・1kmの「輪」でつないでいくことが大事との意見がありました。そして、そこから、池袋の路面電車の復活から都内に展開していければ、との壮大なお話がありました。

講演会の最後に、当会顧問の森本章

倫早稲田大学大学院教授より、池袋のLRTは、派生需要よりも「乗ってみたい」という本源的需要を喚起する視点が重要、そして、LRTの整備とともに、町全体を2・1kmの「輪」でつないでいくことが大事との意見がありました。そして、そこから、池袋の路面電車の復活から都内に展開していければ、との壮大なお話がありました。

講演会の最後に、当会顧問の森本章

倫早稲田大学大学院教授より、池袋のLRTは、派生需要よりも「乗ってみたい」という本源的需要を喚起する視点が重要、そして、LRTの整備とともに、町全体を2・1kmの「輪」でつないでいくことが大事との意見がありました。そして、そこから、池袋の路面電車の復活から都内に展開していければ、との壮大なお話がありました。

講演会の最後に、当会顧問の森本章

倫早稲田大学大学院教授より、池袋のLRTは、派生需要よりも「乗ってみたい」という本源的需要を喚起する視点が重要、そして、LRTの整備とともに、町全体を2・1kmの「輪」でつないでいくことが大事との意見がありました。そして、そこから、池袋の路面電車の復活から都内に展開していければ、との壮大なお話がありました。

注目図書

『満員電車がなくなる日』阿部等

小池都知事の公約「満員電車ゼロ」



■ 小池知事の推薦本が公約の元

小池知事は、平成17年から11年間、池袋を地盤に衆議院議員を務め、池袋でのLRTにもエールを下さっていました。

平成20年に『満員電車がなくなる日』を出版した際に推薦文を下さり、その8年後の都知事選で、サラリーマンやOLの魂の叫びを聞き、「満員電車ゼロ」を公約の1つとされました。

■ 鉄道はもっと増発できる!

満員電車の解消には、運行の効率アップが効果的です。それにより、現行の首都圏各線の1時間20~30本を45~60本に増やせ、満員電車はなくせます。

■ 増発コストは着席料金で

全ての着席に割増料金を払ってもらい、代りに立ち席は安くします。

ラッシュの着席200円割増で、首都圏で年6,000億円増収になり、

車両・信号・ホームドアの性能アップ、車両や運転士が増える分のコストを賄えます。



■ 詳しくは著書改訂版で

旧著以降の変化やさらなる考察を加え、平成28年11月に改訂版を出版しました。

今でも過密運行なのに、さらに電車の本数を増やすなどできないと思う方が多いでしょうが、テクノロジーを投ずることで、安全上の心配はありません。詳しくは拙著をご覧ください。(阿部 等)

池袋駅東口LRT実現時の

CG映像とアンケート調査報告

早稲田大学大学院
創造理工学研究科
交通計画 森本章倫研究室

修士2年 楠 彰太
修士1年 山北 沙緒里

1. LRTの需要予測について

LRTのような新しい交通機関を導入する際には、実現すればどのくらいの利用者が見込めるのか需要予測をする必要がある。平成21年に豊島区が実施した池袋LRT整備構想策定調査によると、計画されている池袋LRTの需要は、平日4040人/日、休日6180人/日(副都心回遊型ルート)と予測されており、日本有数の繁華街である池袋の来街者の規模を考えると非常に少ないように見える。この需要予測では、平日は通勤者のみ、休日は大規模施設来場者のみをLRT利用者としているが、池袋LRTはそれ以外にもLRTへの乗車そのものを目的とする本源的需要が存在すると考えられる。従来の需要予測手法では、本源的需要を加味した需要予測は行われていないため、早稲田大学交通計画研究室でアンケート調査を行い、研究を行った。

2. 本源的需要について

交通の需要には大きく分けて『派生需要』と『本源的需要』が存在する。移動目的の派生需要に加え、「純

粋に交通に乗ってみたいから乗る」という本源的需要も少なからず存在する。この二つの需要は完全に相反する訳ではなく、混在している。

例えば、富山ライトレールでは開業直後の平成18年に休日利用者の16%がLRT目的で乗車している。LRTを整備することで従来の需要だけでなく、本源的需要が喚起されるということがわかる。ただし、開業後1年が経つと本源的需要を含めた定期外の旅客は減っており、時間経過による本源的需要の利用者減衰も考慮しなければならない。

3. アンケート調査の結果

本源的需要がどの程度存在するのか把握するため、池袋にLRTが走った場合の街の風景を再現したVR動画を作成し、アンケート調査を早稲田大学の学生163人を対象に行った。動画は豊島区が池袋の将来像として示した「池袋副都心・グランドビジョン2008」に基づいて以下のご概念図のように作成した。

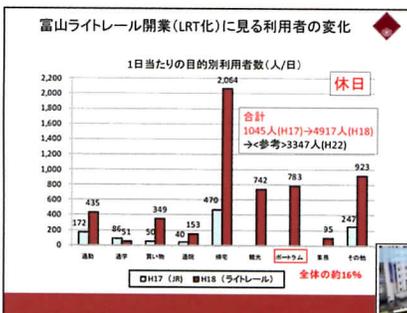
その結果、将来の池袋の姿を「とても良い・良い」と答えた人は79%にのぼり、現在の姿の21%と比べて非常に高い評価となった。また、将来像に対しての感想としては「歩道の拡大」「景観の良化」というような良い面が挙げられた一方、「車にとって不便」という悪い面も挙げられた。

LRTの利用意向については、動画視聴前には58%が利用したいと答えていた。また、利用したくないと答えていた42%の中でも、動画視聴後に利用したいと転換した層が29%(全体の12%)存在していた。この12%は、VR動画を視聴したことによってLRTを利用したいと転換したため、本源的需要が喚起された潜在的な利用者であると言える。

また、LRTの利用意向と動画視聴後の池袋に対する

印象は正の相関関係があった。VR動画を視聴して池袋に良い印象を持った人ほどLRTを利用したい割合が高いことがわかる。つまり、国際アート・カルチャー都市構想に示されるようなまちづくりを進めていくことで、LRTの本源的需要も伸びていくと考えられる。最後に、本源的需要が喚起された潜在的な利用者に関して調べた。動画のような街になったときに来街頻度が増えるかどうか尋ねたところ、その他の層よりも「増える」と答えた割合が高く、有意差が見られた。これはLRTの本源的需要を高めることで、来街者が増えることを示している。

以上より、魅力あるLRTを整備し、本源的需要を生み出すことで、池袋の魅力自体も高まり、来街者・LRT利用者の増加に繋がるという好循環が期待できることがわかった。今後、そういった潜在的な本源的需要の定量化に向けて調査を進めていく予定である。



上図:富山ライトレール開業(LRT化)に見る利用者の変化

右図:池袋の現在と将来像

速報 2019年「東アジア文化都市」

豊島区が2019年「東アジア文化都市」の国内候補都市に決定しました。「候補」とは言え、実質的には決定です。

今まで横浜・新潟・奈良・京都・金沢と名立たる「市」が選定されてきた中、「区」が選定とは画期的です。

「東アジア文化都市」事業では、日中韓3か国にて文化芸術による発展を目指す都市を選定し、様々なイベント等により、相互理解・連帯感を形成し、また多様な文化の国際発信力を強化します。さらに、選定された都市が文化芸術・クリエイティブ産業・観光を振興し、継続的に発展することも目指します。

2019年の1年を通じて、下記のような様々な文化芸術イベントが実施されます。

- 開会イベント・閉会イベント
- 中核期間1か月程度に集中的に文化芸術関連事業
- 日中韓3都市間を中心とした交流事業

高野豊島区長は「2020年東京五輪を目前に控えた2019年、世界の耳目が東京に集中し最も機運が高まっているタイミングに豊島区で開催することで、豊島区のまちの魅力を世界に向けて発信する絶好の機会」とコメントしています。

電動ビークルの運行も検討されており、将来の池袋LRTに結び付くことを願っています。(阿部 等)

Voice ▶▶▶▶▶

東京芸術劇場副館長 高萩 宏さん



舗道を剥がせば、そこは砂浜!!
—池袋の路面電車の導入について—

「路面電車いいですねえ、でも、道路の上に電線があるのはちょっと」と言ったら、「古い古い、今はもう蓄電池で電線はいらないんですよ。」と言われた。「でも、道路にプラットフォームを新たに作るのは難しそう」と言ったら「今は低床式でそのまま道路から乗れるんですよ」と言われた。

「池袋の東口のアスファルトを剥がせば、昔の都電の線路が眠っているというのはどうですか? 都市伝説ですが(笑)」と囁かれて、「敷石を剥がすと、そこに砂浜が!」というパリの5月革命のスローガンが蘇ってきた。何年か前に、にしすがも創造舎で上演した故蜷川幸雄演出の「真情あふるる軽薄さ」で、主人公の青年が「舗道を剥がせば、そこが砂浜」と叫んでいた。僕にとっては40年前に大学の演劇部の公演で出演した(青年と対立する中年男の役でしたが)忘れられない作品です。

「池袋での路面電車復活」夢のある話、良いですね。絶対、観光名所になりますから、素敵な車両の導入をお願いします。

Column ▶▶▶▶▶



南大塚ネットワークの城所さんに、荒川線の車窓を楽しませるバラ植栽のご案内をいただく



三ノ輪橋では、喫茶店主の両宮さんに、取り組みのお話をいただく



夏休み中の早稲田大学内で大隈講堂の堂々たる姿を眺めました

「路面電車そごろ歩き」で わがまち観光! 当会主催ウォーキング・ ミニツアーのご報告

当会では去年の10月に、都電荒川線を利用し、沿線の魅力を再発見するウォーキング・ミニツアーを開催しました。この企画、「池袋の駅前に再び路面電車を通すにしても、戦前から走っている(現)都電荒川線と、その沿線の『いま』を知らないでいては、我々の提案も現実感

のあるものに仕上がらないよね」という議論からスタートしました。当日は、荒川線沿線は電停のほど近くに立地する、大塚・三ノ輪橋・早稲田の3つの商店街を訪ね、それぞれの地域の方に荒川線を活かした取り組みについて、お話を伺うことができました。詳しくは、当会のウェブサイト <http://www.i-tam.com/> (「iとらむ」で検索) にて報告をしております。今後も適宜、同様のミニツアーを催行していく予定で、ウェブサイト上の報告記事もご覧いただければ、幸いに思います。(藤村建一郎)

INFORMATION

活動報告

平成28年4月～

4月18日

●豊島区都市計画課訪問、豊島区都市計画図購入

6月9日

●事務局勉強会、早大森本研究室、大倉拓実氏

「池袋駅東口LRT実現時のCG映像とアンケート調査報告」【本誌6P】

7月

●会報「iとらむ」第11号発行

8月8日

●第14回総会

●シンポジウム【本誌4～5P】

第1部 講演 後藤文男氏 ファンタスティックな「路面電車のまち」
イギリス・ブラックプールの路面電車

第2部 対談 後藤文男氏×高野之夫豊島区長

10月8日

●当会主催荒川線ウォーキング・ミニツアー
(大塚、三ノ輪橋、早稲田)【本誌7P】

平成28年



2月

●海外路面電車(ストラスブール市)広告動画作成※

2月11日、12日

●ヴァレンタインファンタジーin池袋協賛
(豊島区観光協会主催)

※広告動画を南池袋公園にて公開

3月20日

●事務局勉強会、ヴァンソン藤井由実氏

4月29日

●池袋電動コミュニティビークル「eCOM-8」試乗会参加

平成29年



入会のご案内

入会方法・年会費

会員募集

1. 個人会員(個人にご入会の場合) 年会費3,000円
2. 法人・団体会員(会社・学校・病院・町会・商店会・任意団体などにご入会の場合) 年会費10,000円
また別途、賛助会員もお受けしております。年会費 一口10,000円(一口以上からお受けしております。)

お問い合わせ

公益財団法人としま未来文化財団みらい文化課まちの魅力づくりセクション
〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-34-5 藤和第2ビル2階 担当:高橋 TEL:03-3590-7581
「池袋の路面電車とまちづくりの会」事務局 担当:溝口 TEL:03-3983-2483
e-mail:ikebukuro.lrt@gmail.com ホームページもご覧ください http://www.i-tram.com

編集後記

私は紛れもない「鉄(道好き)」である。赤ちゃんの頃から電車を見せるとニコニコしていたらしい。物心ついてからの記憶。国鉄大森駅に近い現在の公園にあるブランコを漕ぎながら、当時は同じ線路を走っていた東海道線と横須賀線をずっと眺めていた。ゲタ電の京浜東北線は、現存の歩道橋の上から見た。そして都電の記憶。どこかの電停から祖母と母が乗せてくれた。銀座四丁目に降りる前、回数券を取り出した祖母に自分がやるんだ、と言ったもの。うまくもぎれず。確か30円と印刷されていたかな？その回数券を女性の車掌さんに一所懸命渡した幼稚園にあがる前の私。小学校に入学の頃。当時、祖母の住む都営アパート近くの新宿通りを走る都電12系統には乗らず仕舞。吊掛式モーター音が耳に残るも、程なく廃止。あれから幾星霜。いま都電荒川線の走る豊島区内の電停近くに住み、毎日都電を眺め、時々乗っている私。この会：路面電車に関わっている私。単純だけど、「都電って、自分の人生の一部なのだなぁ」とあらためて気づき微笑む。私にとって路面電車は楽しいことばかり。だからきっと、池袋のLRT回遊線も楽しい乗り物になる。ゆっくりとやってくる、私達はこのまちに、その日が。(貴)